

インターネット教育利用のための地域活動支援

株式会社 内田洋行 教育システム事業部 竹内宗一郎 斉藤浩明

<http://school.uchida.co.jp/>

キーワード 地域ネットワーク研究会, 地域の活性化, インターネットの教育利用, 教育の IT 活用推進

1. 概要

1.1. 地域支援

「インターネットの教育利用」を広める一つの手法として、全国各地域では教育関係者主体の研究会によってイベント・研修会などが大小を問わず行われている。情報機器活用能力向上のスキルアップ研修会, 研究事例発表, 新学習指導要領対応のための実践研究, 地域コミュニティ形成のための情報交流の場など, 実に様々である。

我々は、本プロジェクトにおいてこれら研究会等の活動を支援するとともに、その支援活動を通じてインターネットの教育利用に有効な地域活動を調査してきた。調査の目的は「インターネット教育関連研究会活動の地域への広がり」を支援することによる、地域活動の活性化, IT 教育利用の促進、「様々なインターネットの教育利用事例, 研究テーマの普及定着」に対するノウハウ共有の手法の普及」である。本プロジェクトは「学校ネットワーク利用促進」の定着自立に至る前段階の、地域への「広がり」のフェーズに着目した支援プロジェクトである。今回、全国より 9 地区の研究会（イベント・研修会）を選定し、その活動の支援を行った。

1.2. 支援ツールの公開

本プロジェクトでは、各研究会のイベント・研修会などの開催支援を目的として、インターネットを利用したイベント案内管理, メール管理の機能を提供した。提供したサービスは以下の通りである。

- ・イベント専用のドメイン名の付与 <http://.edu-forum.net/>（ は任意の文字）
- ・イベント案内 Web ページ作成用テンプレート / 公開用 Web スペース / メーリングリスト / 掲示板

インターネットの教育利用を推進する研究会向けに、本支援ツールを公開中。URL は、<http://www.edu-forum.net/>

2. 支援対象地域および研究会

- 2.1. 山形県天童市 「教育と地域の情報化を考える」シンポジウム in 山形 平成 13 年 11 月 10 日（土）
「教育と地域の情報化を考える」シンポジウム実行委員会 担当：山形大学 田中敦助教授 参加者約 120 名
- 2.2. 栃木県宇都宮市 情報利用教育実践セミナー in 宇都宮 平成 13 年 12 月 1 日（土）
情報利用教育実践セミナー in 宇都宮実行委員会 担当：宇都宮大学 渡辺浩行助教授 参加者約 100 名
- 2.3. 東京都 東京都高等学校情報教育研究会総会 平成 13 年 10 月 27 日（土）
東京都高等学校情報教育研究会 担当：都立駒場高等学校 天良和男教諭 100 名
- 2.4. 長野県安曇地区 IT 活用スキルアップ研修会 in 安曇 平成 13 年年 11 月 17 日（土）
IT 活用スキルアップ研修会 in 安曇実行委員会 担当：大町市立第一中学校 丸山福一教諭 参加者約 40 名
- 2.5. 岐阜県高山市 飛騨高山 2001 びーぼー会議「私たちの見た飛騨高山」 平成 13 年 11 月 23 日（金）
飛騨高山びーぼー会議 担当：市立西小学校 坂田浩一教諭 参加者約 50 名
- 2.6. 石川県金沢市 第 1 回北陸情報コミュニケーション教育研究会セミナー 平成 13 年 12 月 16 日（日）
北陸情報コミュニケーション教育研究会 担当：金沢商業高等学校 林道雄教諭 参加者約 60 名
- 2.7. 大阪府 「情報」関連の授業公開キャラバン 平成 13 年 9 月 25 日（火）～平成 13 年 12 月 1 日（日）
大阪府私学教育工学研究会 担当：大阪信愛女学院 長尾尚教諭 延べ参加者約 170 名
- 2.8. 広島県広島市 「マメ de がんす」プロジェクト中間研究発表会 平成 13 年 12 月 25 日（火）
特定非営利活動法人 中国・四国インターネット協議会 担当：鈴張小学校 玉井基宏教諭 参加者約 110 名
- 2.9. 宮崎県佐土原町 教育振興会情報部会研修会 平成 13 年 9 月 10 日（月）～平成 14 年 1 月 21 日（月）
佐土原町教育振興会情報部会 担当：那珂小学校 鈴木和之校長 延べ参加者約 70 名

3. 各地域研究会の活動紹介

3.1. SPER「教育と地域の情報化を考えるシンポジウム」 東北各県持ち回りシンポジウムの試み

福島学院短期大学 渡辺 景子・岩手県総合教育センター 石橋 和彦

SPER (エスパー, スパー: Symposium on Practical Education and Regional Community of Information)「教育と地域の情報化を考えるシンポジウム」は、1999 年 3 月の福島から始まり、毎回 100～150 名の参加者を集め、岩手、秋田、宮城、山形の各県で順に行われてきた（図 1）。初回の福島では、近隣地域の教育・地域ネットワーク関係者をその対象としたが、次の岩手からは東北全県から発表者・参加者を募り、その頃から各県持ち回りでを行うことを指向した。来年度は青森で開催する予定である。地域全体をカバーする学術系地域ネット TOPIC が、SPER 開催を多方面から支えている。また総

務省東北総合通信局，CECからも多大な支援を受けている。

毎回，開催地の地元メンバーを中心に他県の代表が加わり，実行委員会が組織される。広大な地域に散在する実行委員間の連絡には専用のメーリングリスト（ML）が重要な役割を担う。予稿集の編纂など遠隔で出来る部分は遠隔で行い，会場下見など，実際の顔合わせが必要な部分は地元メンバー等によって行う。作業の切り分け・分担もMLによって行われる。

SPERの最大の特徴は，温泉宿の大広間で車座になり，うちとけた雰囲気の中で教育と地域の情報化を語り合うところにある。深夜まで及ぶ全体の会が終わったあとも，戻った部屋での熱い議論が明け方まで続くこともある。

今年度のSPERは11月10日に山形で行われた。新しい試みとして，基調講演を止め，地元で活躍する人々らによるパネル討論をメインに据えた。SPERを契機に山形で新しい人の輪が生まれた事は言うまでもない。

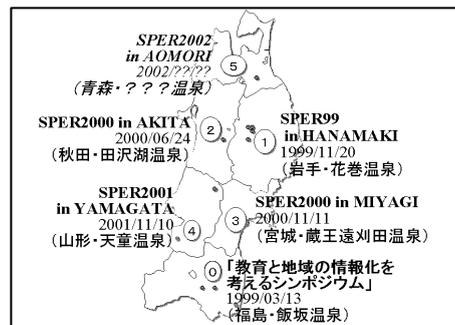


図1．歴代 SPER の開催地

3.2. 大阪府私学教育工学研究会プロジェクト「情報関連の授業公開キャラバン」 四條畷学園高等学校 飯田英佳

大阪府私学教育工学研究会は，新教科「情報」の立ち上げを1年後に控え，多様な教科の先生間ネットワークを築き「情報活用能力の育成に向けた指導方法や課題を共有していく」という「普通の取り組み」こそが，新しい枠組みに則った教育の可能性を模索できると考え「情報関連の授業公開キャラバン」をスタートさせました。

第1回：情報A「イギリス留学の報告書作成」四條畷学園高等学校 飯田英佳教諭（数学・情報）

第2回：情報A「フリーソフトを利用したマルチメディア学習」大阪薫英女学院高等学校 津田郁夫（理科・情報）

第3回：情報処理 「落下運動のシミュレーション」飛翔館高等学校 川崎初治（理科・情報）

第4回：英語選択「イントラネットを活用した個別学習」プール学院高等学校 Robert Jolly・小池 崇司（情報）

講演会&シンポジウム：『どないすんねん？新教科「情報」』金沢大学：黒上晴夫 大阪府教育センター：今田晃一
「情報関連の」としたのは，教科「情報」以外に情報機器を活用した普通教科も含めておく方が，幅広いヒントが得られると考えたからです。参観後に90分程度の意見交換会を開き公立校からの参加者も含めて実に様々な視点から「情報機器を活用した指導方法」に関わる不安や疑問について討議しました。単なる他校の事例紹介であっても各校で孤軍奮闘している教員には大変貴重な情報となり，回を追うごとに熱気の高まりを感じました。CECの支援を受けた企画の締めくくりに「講演会&シンポジウム」では，授業実践をビデオで振り返りながら専門家を交えて教科「情報」の真の目標について参加者と共に意見を交換できました。

この活動は現在も継続中で，2002年からは新たに指導案がWEB上で事前に公開されます。その指導案に対してバーチャル・ブレイン・ストーミングが実施できるしくみを鋭意制作しており，先生方のご参加をお待ち致します。

詳細は，おおさか私学ネット（<http://www.osaka-sigaku.net>）をご覧ください。

3.3. 快適なプロジェクトの基本 中国・四国インターネット協議会の学校支援活動 南観音小学校 森保尚美

CSIと「教育の情報化」支援活動の歴史

中国・四国インターネット協議会（以下CSI）は1993年3月に設立された地域ネットワークである。1999年9月に，特定非営利活動法人として認可を受け，当地域におけるネットワークコミュニティの健全な発展に貢献してきている。中国・四国地方の100校・新100校プロジェクト参加校のインターネット接続を行い，その参加校の教員を中心に結成された「School@CSI」の教育実践やシンポジウムの開催を支援した。また，学校の専用線接続支援実験「ネットdeがんすプロジェクト」を実施するなど数々の実績がある。

(1)「街角音楽隊」と「インターネット博覧会」(2000.12.31～2001.12.31)

広島市立南観音小学校児童は，地域を地盤とした総合的な学習の取り組み「街角音楽隊」を行い，CSI利用促進部の技術的支援をうけながら，政府の主催する行事「インターネット博覧会」に参加した。

(2)高度マルチメディア通信に関する研究プロジェクト「マメdeがんすプロジェクト」(2001.03.01～)

このプロジェクトは，学校における映像や音声を用いた遠隔会議等の利用活性方法模索，マルチメディアコンテンツ制作・活用の課題研究，利用支援技術の開発，マルチメディア通信リテラシーの向上を目的に設立された。研究協力校である広島地域の小学校9校や関係研究者が所属する学校等は中高速（10Mbps程度）のイントラネットに接続され，アフリカの皆既日食を活用した授業や遠隔地との遠隔合唱等，マルチメディア通信を利用した実践を行った。

インターネット利用促進研究グループの組織運営のポイント

学校担当者とプロジェクトの指導・助言にあたる推進委員会との連携。（オン・オフ会，ML，コーディネーター） 様々な人材の確保。（NTT，大学，NPO，学校，ネットワーク研究者，天文学者，ミュージシャン，行政（広島市研修センター）

実施方法（企画は研究員の主体性に任せ，プロジェクト参加者は企画実施に尽力・協力すること） 研修会での技術支援 成果発表会の開催（全国から100名を超える参加者があった。）